

酒呑みのひとりごと

大森 海太

へぼ暮仲間のS君はこの夏、家族連れで沖縄旅行を楽しんだそうだが、夕食のレストランではテーブルに用意されたタブレットでの一括注文。さらに驚いたのは次の日のレストランで、スマホでQRコードを読み込んで注文すると、ロボットが料理を運んで来るのだそうである。どんな店だか知らないが、観光地沖縄でもこのありさま、人手不足とはいえ味気ないとS君は嘆く。

私などは外で飲み食いするとき、食べ物の味もさることながら、まずその店のお兄さんお姐さんとの対話を試してみる。

「今日はなにが美味いかな?」「おすすめはこちらの・・・」といったやりとりを繰り返すうちにお店の雰囲気が分かってくる。「また来ようかな」と思ったら合格だ。

その点、タブレット注文だのロボット配膳などは論外、まるで自販機の前で食事をしてみたいじゃないですか。

私は一人で飲みに行くことはまずないが、なかには一人で出かけて店の人との会話を楽しむ御仁もおられるだろう。これもそのうちに対話型AIときのバーテンロボットなどというのが現れて、そいつとカウンター越しにお喋りてなことになるかもしれない。なんだか薄気味悪いですよね。

ところで最近は若者たちのアルコール離れが進んでおり、低アルコールとやらが売られているとか。さらに聞いた話では「お酒を飲まなくてもいいバー」なるものが流行りはじめたそうである。まったく信じられないことで、飲み屋に行って酒を飲まなくて何が楽しいのか? 若者たちはみんなが集まってワーワー騒ぐのに、酒のたすけなど要らない、かえって邪魔になるといふことなのだろうか。

イヤ、時代は変わった。我々のころは大学に入るとすぐに歓迎コンパなどで未成年なのにシコタマ飲まれたものだ。おかげで今日に至るまで、酒を友として毎日を楽しむことが身につき、長い人生で多くの知己を得て懇親を深めることができた。

まあこれからも元気で、酒好きの年寄り仲間たちと飲み続けていたいものですな。